

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年11月1日～平成 19 年10月31日

テーマ： 資源の有効利用とわかば環境ISOの推進

氏名： 沢田 隆博 所属： 平塚市立中原小学校

1. 課題の主旨

地球規模の温暖化現象や資源の枯渇傾向が進む現状の中、今、切実に私たち一人ひとりの生き方が問われている。本校では、学校教育の中に「わかば環境ISO」を位置づけ全校で取り組むことで一人ひとりの環境への意識向上と実践的な態度の育成をねらっている。また、学校での取り組みを「環境だより」で家庭に知らせ、家庭と一緒に活動することで環境ISOの活動の輪を地域に広めている。

2. 準備

特別活動の美化委員会や環境ISO委員会を中心に、資源の有効利用と省エネルギーへの取り組みを主として実践する。

3. 指導方法

* 特別活動時に児童のISO委員会の活動として実施。

* 全学年・全学級での環境教育として総合的な学習や生活科の学習として実施。

わかば環境ISOの取り組みについては、学校全体の目標を各学級で具現化できるよう各学年の年齢に合わせて目標を設定している。目標に対して、ひとり一人の取り組みができるよう担任が指導している。子どもたちは、休み時間等の中で自主的な実践をしている。

資源の有効利用については、主に特別活動の時間を使って活動している。学年によっては、生活科や総合的な学習の時間で活動している。落ち葉等で作った肥料を使い、栽培活動を中心に進めている。

4. 実践内容

今年度は、「ゴミの減量・リサイクル」に力を入れている。

①各クラスのプラクル箱の購入と設置

給食などから出るプラクルの回収ため各クラスにプラクル用の箱の設置し、児童のプラクルへの意識の高まりを目指した。

②落ち葉による腐葉土作り

校庭の桜の葉等を集め、来年度用の腐葉土として利用できるように「全校での落ち葉拾い」を実施した。

③EM菌(有用微生物群)によるプール水浄化及び草花等の花壇の手入れ

EM菌により、プールのヘドロが減少し、河川や海に与える影響を少なくする。また、土壌にも効果があり、草花や野菜栽培にも活用できることから、子どもたちの興味・関心も増し、環境に対する意識付けに活用した。

④リサイクルについて家庭への啓発

中原小学校の実態や活動の様子・リサイクルについての問題等を「環境だより」で知らせ、休み期間中は家族でISO活動に取り組むことを投げかけることで家庭や地域の意識の向上を図った。

5. 成果・効果

○各学級での燃えるゴミとプラクルとプラスチックの分別が昨年よりも増してできるようになった。プラクルの箱の購入が遅くなってしまったが、設置することにより、さらに意識化できた。

○子どもたちの落ち葉集めがさらに積極的になり、入れる箱がいっぱいになるほどで、腐葉土作りも進むものと思える。ビニル袋の活用は良かった。また、給食の残飯もリサイクルすることもできた。

○EM菌は、今年度10月にプールに入れたが、来年のプール清掃時に子どもたちに見せるだけでなく、デジタルカメラを活用し、時々様子を知らせたい。また、水を排水すれば下水道管や川・海もきれいになることや植物の成長にも良いことを知らせ、活用を子どもたちに考えさせるようにしたい。

○「環境だより」により、各家庭でもゴミの分別やリサイクル・省エネルギーについての啓発ができた。そのため、市のコツコツプランにも取り組む家庭が増えつつある。

6. 所 感

地球温暖化や省エネルギーが社会の中でも注目視されている今日、環境についての取り組みは、これからの日本を背負う子どもたちにとって、不可欠である。

私たち教員も、環境を意識し「環境教育」として子どもたちの活動を促していく必要がある。それは、小学校という枠の中での小さな取り組みではあるが、子どもたちの意識や意欲を高めることにより、これから先も「環境」に対して敏感になり、その年齢に応じた取り組みをしてくれたらと願っている。

予算逼迫の中、助成をしていただいたことに対し、とても感謝している。EM菌を子どもたちとプールに入れたが、来年6月のプール清掃時に驚く顔が楽しみである。学校から地域へ、地域から市へ、そして日本や世界へと環境を良くしようとする輪が広がっていくことを願っている。

7. 今後の課題や発展性について

○平塚市のわかば環境ISOへの取り組みの中で、学校も認定審査を受けることから、本校職員の意識も高まっている。子どもたちに関しては、関心は高まってきているものの意欲については個人差がある。今後は、さらに新しい取り組みを導入し、活動の幅を広げ、子どもたちだけでなく、各家庭も視野に入れながら啓発していきたい。

○資源の有効利用については、校内での活動には限度があると思われる。生活科や総合的な学習の時間を活用し、環境問題等に取り組んでいるところである。今後も有効利用を意識化することにより、栽培や美化等の活動をさらに力を入れたい。また、校内の環境について等、子どもたちが主体的に活動できるよう進めていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

環境ISOの取り組みでは、各家庭へ学校での活動内容の紹介と啓発を目的とした文書を、年に数回発行している。